



当社の活動は、インターネットのホームページでも公開しています。
<https://www.taiseirotec.co.jp/>

人々のために、より良い環境を創造する



TAISEI ROTEC SUSTAINABILITY REPORT

大成ロテック サステナビリティレポート

2022

私たち大成ロテックは、
「進一層」(危機や逆境のときこそ退かず前へ進む)の精神で、
「世のため、人のため」に貢献する企業として、
持続的成長を実現していくために、未来に向けて挑戦します。



本報告書は、環境に配慮した印刷工程と印刷資材を採用しています。
再生可能資源で環境負荷を大幅に低減する植物油含有の印刷インキと、適切に管理された森林からの原料を含む[FSC®認証紙]を使用しています。



For a Lively World

自然と社会と人に 深くかかわる企業として、 人々のためにより良い環境を創造する。

大成ロテック株式会社は、持続可能な開発目標の設定を通して、企業の社会的責任を果たし、人びとのためにより良い環境を創造して社会とすべての利害関係者の信頼を得られるように努める。これを実現するためのマネジメントシステム方針をここに定める。

安全衛生方針

安全第一の精神を基本として、先取り型の安全衛生管理活動を全員参加で実践し、法令を順守し、労働災害、公衆災害、交通事故を撲滅して、健康でストレスのない明るい快適な職場を構築する。

環境方針

地球環境、地域環境の保全を推進し、資源の有効な利用によって、循環型社会の実現に取り組み、次世代に託す美しい快適環境を創造する。

品質方針

創造力と知恵を結集して技術の研鑽に努め、社会と顧客から評価され信頼される品質を提供する。



編集方針

本報告書は、大成ロテック株式会社が社会に果たす役割とさまざまな取り組みを皆様にお伝えし、当社の活動に対する理解を深めていただくことを目的に発行しています。

対象期間

2021年4月1日～2022年3月31日 *一部期日を明記した上で当該期間以外の内容も記載しております。

お問い合わせ先

大成ロテック株式会社 社長室 経営企画部
東京都新宿区西新宿 8-17-1 住友不動産新宿グランドタワー
TEL 03-5925-9435 FAX 03-3362-5804

CONTENTS

企業理念	1	■大成ロテックの技術	9
会社概要	3	■製品事業本部の取り組み	12
中期経営計画(2021～2023年度)	3	■マネジメント報告	13
営業所ネットワーク	4	■従業員とともに	15
社長メッセージ	5	Topics 建築本部の取り組み	17
特集		■地域社会とともに	18
2つのパーキングエリアの整備と本線の舗装修繕	7	■安全衛生管理体制	19
関越自動車道 所沢管内舗装補修工事		■環境活動報告	21
		■2021年度の工事実績	22

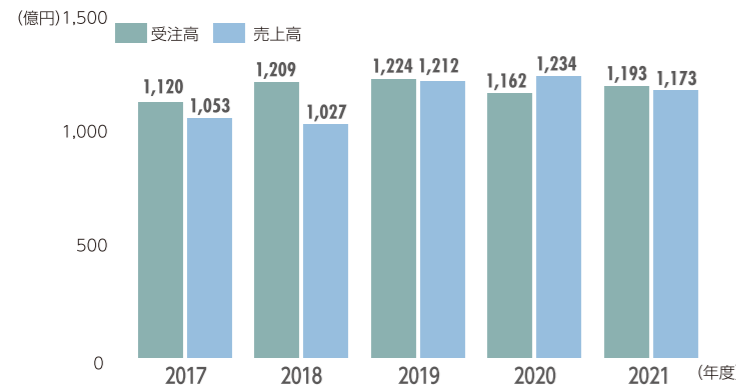
会社概要

商号 大成ロテック株式会社
(英文名TAISEI ROTEC CORPORATION)
本社 東京都新宿区西新宿8-17-1 住友不動産新宿グランドタワー
設立 1961年6月15日(昭和36年)
資本金 113億5千万円
建設業許可 国土交通大臣許可(特-29)第1964号・(特-30)第1964号
建築士事務所登録 1級建築士事務所(東京都知事登録第21111号)
建設コンサルタント登録 国土交通大臣登録 建01第130号
宅地建物取引業免許 東京都知事(12)第 33255号
従業員数 1254名(2022年3月31日現在)

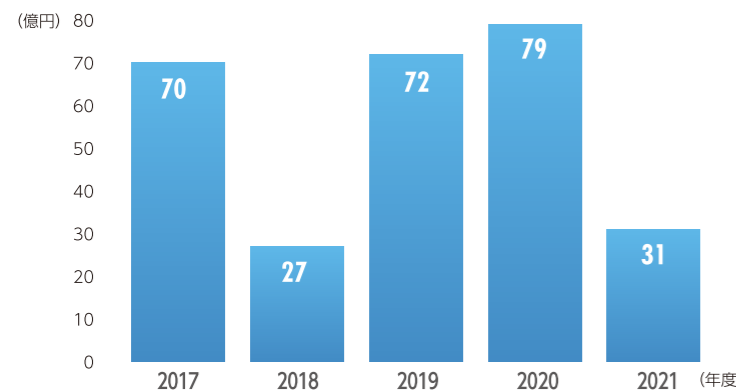
営業種目

- 次に掲げる工事の設計、施工、監理およびコンサルティング
(1)道路工事 (2)舗装工事 (3)防水工事 (4)管工事 (5)造園工事
(6)その他の土木工事 (7)その他道路に関する工事 (8)建築工事
- 建設用資材の製造および販売
- 建設機械器具の設計、製作、販売、修理および賃貸
- 道路、空港、上下水道その他公共施設等の企画、建設、保有、維持管理
および運営
- スポーツ施設、飲食店等の商業施設、医療介護施設等の経営および賃貸
- 産業廃棄物の処理ならびにその再生品の製造および販売
- 不動産取引および不動産管理に関する事業
- 発電およびエネルギー供給事業
- 貨物利用運送事業
- 前各号に付帯関連する一切の事業

受注高および売上高



経常利益



中期経営計画 (2021~2023年度)

当社はコンプライアンス遵守を基本とする経営方針のもと、高収益体質への転換に取り組み、今後の持続的成長を実現し、業界内での確固たる地位を確立するため、今般、中期経営計画(2021~2023年度)を策定しました。

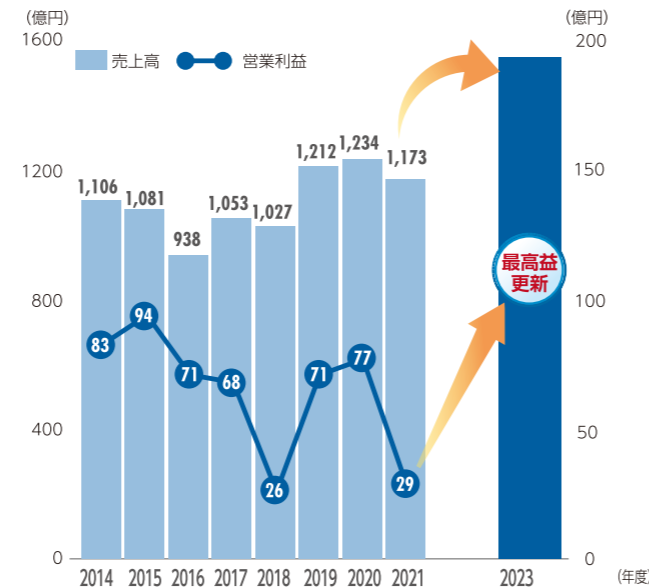


コンプライアンス遵守を全ての事業活動の基軸とし、以下を重点施策とします。

1 人材の獲得及び育成	2 本業の拡大	3 新規事業の収益化
4 技術開発の推進	5 安全・環境・品質の向上	6 グループ力の強化

経営数値目標

当社の過去最高益(2015年度営業利益)の更新を目指します。



営業所ネットワーク

(2022年11月1日現在)

本社を中心に支社、営業所、工事事務所、合材工場など、日本全国に200ヶ所以上の拠点を設置。各種工事の施工、アスファルト合材の製造・販売など、万全の事業ネットワークで豊かな社会づくりに貢献します。

1 本社

技術研究所/機械技術センター/鴻巣研修センター

2 北海道支社

道北エリア 道北営業所/遠別営業所/弟子屈営業所/道東営業所/旭川工事事務所/大雪アスコン/遠別合材工場/丹頂アスコン/弟子屈合材工場

道央エリア

道央営業所/ニセコ倶知安営業所/札幌工事事務所/札幌中央アスコン

道南エリア

道南営業所/室蘭営業所/日苫営業所/門別営業所/日苫工事事務所/函館アスコン/イブリアスコン/洞爺アスコン/苫東アスコン/門別合材工場

3 東北支社

北東北エリア 岩手営業所/久慈営業所/青森営業所/三沢営業所/秋田営業所/北東北工事事務所/秋田工事事務所/岩手中央アスコン/久慈中央アスコン/秋田アスコン

宮城エリア

宮城営業所/山形営業所/宮城工事事務所/山形工事事務所/仙台東アスコン/山形セントラルアスコン/寒河江合材工場

福島エリア

福島営業所/福島北営業所/いわき営業所/相馬営業所/福島工事事務所/浜通り工事事務所/福島県中央アスコン/若松アスコン/福島・東北アスコン/いわきアスコン/相馬アスコン

4 東関東支社

千葉エリア 千葉営業所/成田営業所/千葉工事事務所/成田工事事務所/房総合材工場/成田アスコン

船橋エリア

船橋営業所/柏営業所/船橋工事事務所/柏工事事務所/トーセキアスコン

茨城エリア

茨城営業所/鹿島営業所/ひたちなか営業所/茨城工事事務所/鹿島工事事務所/ひたちなか工事事務所/石岡合材工場

5 北関東支社

北関東第一エリア 北関東第一営業所/栃木営業所/さいたま工事事務所/栃木工事事務所/浦和アスコン/鴻巣上谷環境センター/栃木アスコン

北関東第二エリア

北関東第二営業所/花園営業所/群馬営業所/川越工事事務所/花園工事事務所/群馬工事事務所/花園合材工場

6 南関東支社

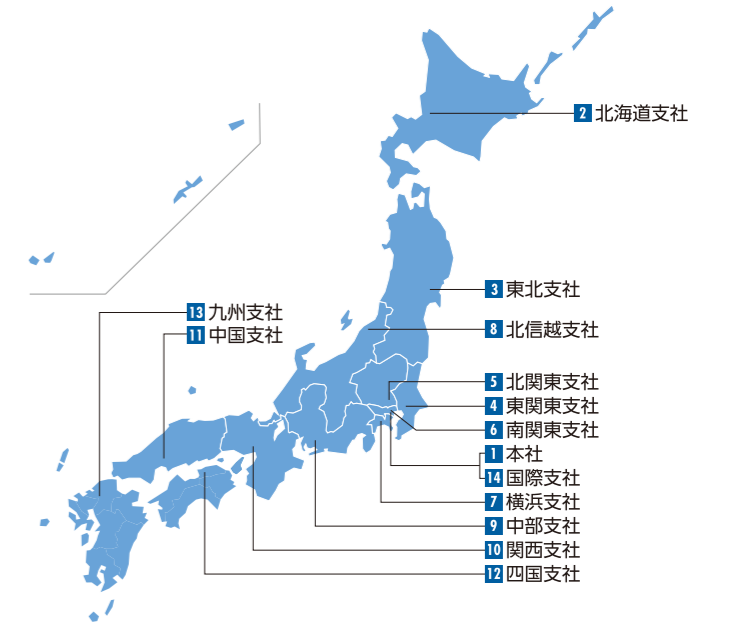
東京エリア 東京営業所/京浜営業所/東京工事事務所/東京青海合材工場/城南島リサイクルセンター/首都圏資材センター

多摩エリア

多摩営業所/山梨営業所/多摩工事事務所

7 横浜支社

横浜エリア 横浜営業所/川崎営業所/箱根伊豆営業所/横浜工事事務所/相模アスコン/金沢アスコン



8 北信越支社

北陸エリア 北陸営業所/富山営業所/福井営業所/石川工事事務所/富山工事事務所/加賀アスコン

信越エリア

信越営業所/長野営業所/新潟工事事務所/長野工事事務所/新潟合材工場

9 中部支社

名古屋エリア 名古屋営業所/名古屋工事事務所/エーシートアケ

尾張エリア

尾張営業所/岐阜営業所/尾張工事事務所/小牧合材工場

三重エリア

三重営業所/三重工事事務所/名四アスコン

静岡エリア

浜松営業所/静岡営業所/浜松工事事務所/湖西アスコン/静岡アスコン/イワレキ

10 関西支社

大阪エリア 大阪営業所/奈良営業所/大阪工事事務所/岸和田合材工場/淀川アスコン

神戸エリア

神戸営業所/神戸工事事務所/せいしんアスコン/姫路アスコン

京阪エリア

京阪営業所/京都営業所/福知山営業所/舞鶴みなと営業所/京阪工事事務所/大阪アスコン/福知山合材工場/舞鶴みなとアスコン/京丹後アスコン/綾部アスコン

11 中国支社

東中国エリア 岡山営業所/鳥取営業所/東中国工事事務所/津山合材工場/鳥取合材工場

西中国エリア

広島営業所/山口営業所/呉営業所/島根営業所/備後営業所/広島工事事務所/山口工事事務所/広島合材工場/広島アスコン/島根アスコン/防府アスコン

12 四国支社

四国エリア 香川営業所/愛媛営業所/高知営業所/四国工事事務所/池田アスコン/脇町アスコン/東予アスコン

13 九州支社

北部エリア 北部営業所/大分営業所/佐賀営業所/福岡工事事務所/佐賀工事事務所/玄海アスコン/豊海アスコン/佐賀合材工場/福岡サテライト工場

中南部エリア

中南部営業所/宮崎営業所/鹿児島営業所/中南部工事事務所/熊本合材工場/阿蘇合材工場/ひむか合材センター

沖縄エリア

沖縄営業所/沖縄工事事務所/海邦アスコン/久米島合材工場

14 国際支社

持続的成長を 実現していくために、 私たちは 未来に向けて 挑戦します

Sustainability



代表取締役社長 **西田義則**

私たちを取り巻く環境および課題

新型コロナウイルス感染拡大、気候変動による災害の激甚化、IT技術の進化等、社会の状況はこれまでにないスピードで刻々と変化しています。

先行きが不透明となり、将来の予測が困難な「VUCA時代」に突入した今、私たちは、この変化に柔軟かつ迅速な対応を求められています。

また、ロシアによるウクライナ侵攻、それに伴う急激な円安による原油価格上昇等の不測な事態を受け、私たちを取り巻く環境も大きく変化しています。

当社はそのような時代の変化にも柔軟に対応できる企業へと成長を遂げると共に、「世のため、人のため」の企業として社会的責任を果たしつつ、この先の10年、そして、未来に向けて挑戦してまいります。

中期経営計画(2021~2023)の 目標達成に向けて

2021年度からスタートした「中期経営計画(2021~2023年度)」では、この3年間で10年後のあるべき姿を実現するための3カ年計画と位置づけ、コンプライアンスを全ての事業活動の基軸として目標達成に向け、以下の取り組みを推進しています。

基本方針

- 「世のため、人のため」の企業として社会に対する責務を果たすために、企業・経営・行動の各理念に立ち寄り、コンプライアンスを基軸とした事業活動を進一層の精神で強力に推進していく。
- 「名実ともに業界No.1」への道程として、持続的成長を実現することで過去最高利益を更新し、スーパーゼネコン系道路会社で「No.1」となる。

重点施策

- 1 人材の獲得及び育成
「企業は人なり」の実践
- 2 本業の拡大
競争に打ち勝つための戦略
- 3 新規事業の収益化
早期の収益化とカーボンニュートラルに向けた取り組みの推進
- 4 技術開発の推進
将来への飛躍を目指し、夢のある技術の開発
- 5 安全・環境・品質の向上
社会からの信頼の獲得
- 6 グループ力の強化
最強のグループ構築

新規事業の推進および新技術の開発

2020年に政府が宣言した「2050年のカーボンニュートラル、脱炭素社会の実現」に向け、大きな変革を迫られています。

「人がいきいきとする環境を創造する」大成建設グループ理念の下、私たちは、アスファルトプラントにおけるCO₂削減へ向けた取り組み、カーボンニュートラルに貢献する中小水力発電事業、そして、新技術・新材料の開発の推進など、自然と社会と人に深くかかわる企業として、カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現に向けた、新たな取り組みにも果敢に挑戦しています。

働き方改革の実現に向けて

新型コロナウイルス感染症の拡大は、在宅勤務、時差出勤等、働き方を考える上で大きな転機となりました。当社においても働き方改革の実現に向け、長時間労働の削減、休日取得に対する意識改善を行い、多様性のある働き方の取り組みにより魅力ある職場づくりを推進していきます。

また、働き方改革を進めるには、生産性の向上が必須となることから、生産現場におけるICT舗装の推進、自動化・無人化等の工法・機械開発等、業務の効率化を図るDXの推進にも努めてまいります。

当社の未来

当社は、この先の10年、そして、その先の未来を見据え、創業者の大倉喜八郎翁の「責任と信用」「進一層」を胸に、大成建設グループの中核を担う企業として、これからも持続的成長を遂げてまいります。

昨年、当社は創立60周年を迎えました。これからも社会に必要とされるために、道路業界における「名実ともにNo.1」を目指し挑戦していきます。

2つのパーキングエリアの整備と本線の舗装修繕

本工事は、関越自動車道 練馬IC～本庄児玉IC、圏央道 あきる野IC～川島IC間の本線補修工事、三芳PA下り線のバリアフリー化と歩道改修、および寄居スマートIC上り線の新設工事です。

関越自動車道 所沢管内舗装補修工事

【工事概要】
 〈発注者〉東日本高速道路株式会社 関東支社
 〈工期〉2019年3月5日～2021年12月18日



寄居PA スマートIC 上り線新設

土砂掘削 / 15,000m³
 アスファルト舗装 / 4,200m²
 用排水 / 1,000m²



三芳PA バリアフリー化

切削オーバーレイ / 20,000m²
 半たわみ舗装 / 10,000m²



高速道路本線の舗装補修

◎本線補修工事284,000m²
 切削オーバーレイ / 269,000m²

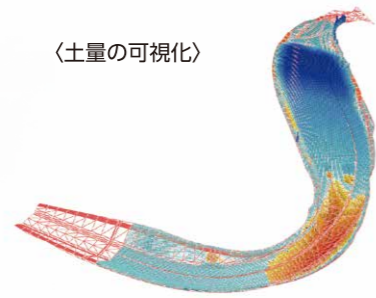
ICT土工

ドローンによる3次元測量(点群)の情報を元にバックホウなどのICT建設機械を制御し、3次元測量により出来形を管理します。

〈点群〉



〈土量の可視化〉



土工



舗装工事

半たわみ性舗装

空隙の大きなアスファルト混合物に特殊なセメントを浸透させて、アスファルト舗装のたわみにコンクリート舗装の剛性を加え、駐車場のわだちを発生しにくくしています。

セメントミルク



舗装工事



セメントミルク注入

現場の声

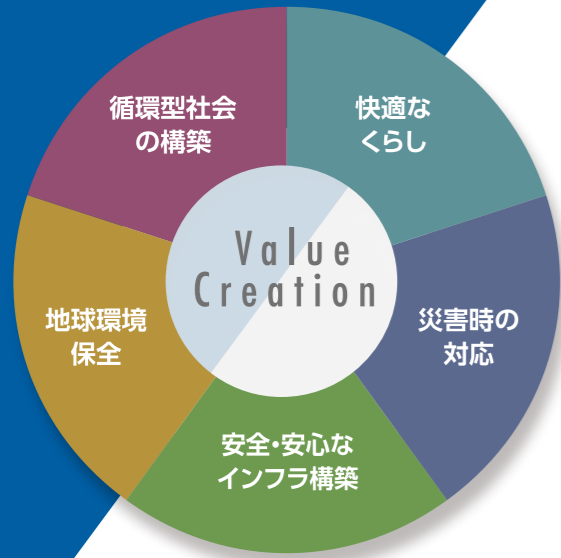


施工エリアはNEXCO東日本でトップクラスの交通量を誇る路線です。工期中はコロナウィルス蔓延による「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会」の延期・開催など社会環境の変化で、交通量も大きく変動するなか施工しました。

施工は昼夜問わず4班体制としました。職員・協力会社一丸となり無事故無災害で完了させ、発注者からの要望に応えることができました。皆様も関越道三芳PA(下り)・寄居スマートICは我々の努力の結晶なので、是非ご利用ください。

技術が未来を創る。

大成ロテックの強み「技術力」。
環境の保全・資源の有効利用など
SDGs達成の一翼を担っています。



路面騒音の抑制

排水性・透水性舗装「ポーラスペーブ」

連続した空隙を有するポーラスアスファルト混合物が、タイヤと路面の接触時に発生する騒音を抑制する舗装です。

PRMS多機能工法

排水性舗装の表面の空隙部に弾性レジンモルタルを充填する工法。弾性モルタルがタイヤと路面の接触時に発生する騒音を抑制します。

ヒートアイランド対策

保水性舗装「クールロード」

ポーラスアスファルト舗装の空隙に充填した特殊なセメントグラウトが水を蓄え、その蓄えられた水が蒸発する際に路面温度の上昇を抑制する舗装です。

遮熱性舗装「クールウェイ」

太陽光のうち、物体の温度を上げる“近赤外線”を効率良く反射する特殊な塗料“遮熱性塗料”を舗装の表面に塗布した舗装で路面温度の上昇を抑制します。

維持・修繕

リラクスファルトHT舗装

変形追従性(たわみ性)や応力緩和性、塑性変形抵抗性を改良した特殊改質アスファルト混合物を用いて、ひび割れとわだち掘れの発生を抑制する長寿命化舗装で、維持管理におけるコストダウンを図ることができます。



ワンダーコーティングシステム

構造物の延命を目的に開発された高性能塗装システム。構造物へ常温での塗装が可能で、乾けばガラス質膜が形成されます。ガラス質膜が構造物表面を風雨や紫外線等から守り、構造物の寿命を延ばし、メンテナンスを容易にします。劣化の防止、外観の長期維持、および汚れを簡単に除去できる機能を持つガラスコーティング技術です。

(施工前)



(施工後)



防災

地下貯留工法

公園や駐車場などの地下に貯留槽を構築する工法。都市部のゲリラ豪雨など、短い時間で降った大量の雨を一時的に貯留することで、道路等の冠水の発生を抑制します。

スーパーフレックスファルト

アスファルト表面遮水壁に使用する、たわみ性に優れた耐震性の高い特殊なアスファルト混合物。地震時の急激な堤体の変形にも追従し、アスファルト遮水壁表面のひび割れの発生を抑制します。

快適な歩行空間の創造

ウッドファイバー舗装

間伐材を再利用し、クッション性が高く自然に調和する舗装です。

ソフトウォーク

リサイクルゴムチップを用いた舗装。透水性と適度なクッション性を有し、歩径路やジョギングコースの舗装に適しています。



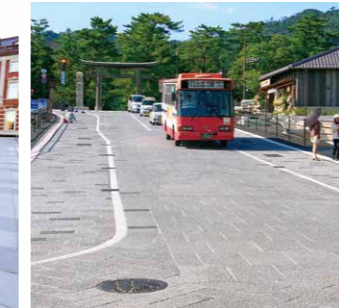
景観舗装

インジェクト工法

大型車が走行しても破損しない、耐久性抜群の自然石舗装の構築工法。歩車道一体の石畳の景観舗装を可能とします。最初の施工場所は定期バスや大型観光バスが走行する路線で、供用開始から20年を超えましたが、良好な供用性を維持しています。景観舗装として、駅前広場や商店街、神社仏閣など全国各地で多くの実績があります。



JR東京駅丸の内駅前広場



出雲大社前

TNC自然色舗装

脱色アスファルトを用いて、天然の骨材が持つ自然な色彩をそのままに、さまざまな情景にマッチする自然色舗装です。

エクセレントソイル

土本来の自然な風合いとともに、適度な弾力性、衝撃吸収性を備えた歩道用の土系舗装です。

常温合材

TRミックスアクリル

「充填する・水をかける・踏み固める」の3ステップで施工できる専門技術不要の全天候型高耐久アスファルト補修材です。

袋から出してそのまま使用でき、水しか使用しないので、誰でも簡単に安全に作業できます。水と化学反応して硬化する画期的なアスファルトで、約30分で硬化。すぐに交通解放が可能です。

雨天でも使用することができ、緊急時の舗装復旧だけでなく、ポットホールの穴埋めや段差解消のためのスロープ状のすりつけ等、簡易的な補修や雑草の抑制などにも活用できます。

幅広い用途があるため、自衛隊、高速道路(株)、ゴルフ場、駐車場管理会社、ホームセンター等で採用実績があります。



研究開発の拠点 技術研究所

持続可能な社会の実現を目指し、新たな技術開発・研究と研鑽を重ねています。

技術研究所では、さまざまな分野の技術の連携や融合を図り、社会的に求められているカーボンニュートラルの実現へ向けた技術開発や、舗装の長寿命化を目指した技術、再生可能エネルギーを創出する舗装技術など、国民生活の利便性の向上や安全・安心の確保に貢献できるよう所員一丸となって活動しています。

NEDOのグリーンイノベーション基金事業

「CO₂を用いたコンクリート等製造技術開発プロジェクト」に採択されました。

道路舗装は、黒色のアスファルト・コンクリート舗装と白色のセメント・コンクリート舗装に大別されます。当社は土木・建築業界で唯一、石油アスファルトとセメント系材料の両方の脱炭素化を進める国家プロジェクト(国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(以下「NEDO」)事業)に採択されました。

コンクリート廃棄物を削減しCO₂固定量を最大化することで、セメント・コンクリート舗装のカーボンニュートラル化を目指します。

コンクリート廃棄物を削減しCO₂固定作用を有効利用する舗装

城南島リサイクルセンターでは2020年より、都内建築現場で余った生コンクリートから再生路盤材を製造するリサイクルを行ってきました。全国の建築土木等施工現場からの戻り生コンクリート・残コンクリートは年間約330万tといわれ、製造時に排出したCO₂は環境負荷に拍車をかけている状況です。

生コンクリートは、石灰石を1,400℃以上で加熱した焼成工程を経てきたセメントと、骨材・砂・水を混ぜることで製造されます。1t当たり137kgのCO₂を排出してできていると算出されます(1m³当たり329kgのCO₂排出)。

コンクリートに含まれているカルシウムは空気中のCO₂を取り込む特性があり、1t当たり最大約83kg(1m³あたり最大約200kg)のCO₂を固定できるといわれています。セメント・コンクリートがCO₂を取り込む現象は「中性化」と呼ばれ、我が国のカーボンニュートラル宣言以前は、ネガティブなイメージでした。

本研究では積極的にセメント・コンクリートにCO₂を吸着させる舗装構造の開発や、CO₂を固定した材料をうまく活用して舗装とすることを目指しています。

NEDO事業採択は、当社が所属する一般社団法人生コン・残コンソリューション技術研究会の会員である(株)安藤・間、(株)内山アドバンス、大阪兵庫生コンクリート工業組合、灰孝小野田レミコン(株)を委託先とし、さらに再委託先として日本道路(株)、(株)佐藤渡辺、青木あすなる建設(株)、(株)浅沼組にてコンソーシアムを構築しています。早期研究開発および社会実装を目指すため、RRCS会員の三和建業(株)、白石建設(有)、(有)長岡生コンクリート、ヒロセホールディングス(株)、トピー工業(株)、光洋機械産業(株)、(株)グロースパートナーズ、丸壽産業(株)など加盟企業と協力関係を構築していきます。同じコンソーシアムの委託先、(一財)電力中央研究所およびその再委託先の東京大学、東京都立大学、国立環境研究所、明星大学とともに、CO₂固定量評価を目指し取り組んでいます。

CO₂有効利用構想(短期目標)

現状 → 建築現場 → 建築工事における残コン・戻りコン量製造量の2~3% → 持続的発展

舗装や道路構造物(JIS規格外)に有効利用

大成ロテックの取り組み

◎現状の残コン・戻りコン利用

建築現場 → 中間処理 → 道路用資材利用

2020年から運用(大田区城南島リサイクルセンター)

研究開発

生コン(建築現場など) → CO₂を固定 → 残コン・戻りコン加工 → CO₂有効利用コンクリート舗装(仮)



製品事業本部の取り組み

合材工場では、大成グループが掲げる【TAISEIVISION2030の3つのX】の基、特にデジタルトランスフォーメーション【DX】、ならびにサステナビリティトランスフォーメーション【SX】に対して積極的に取り組んでいます。

DXへの取り組み プラットフォーム型オーダーシステム「アスプラネット」の開発

製品事業本部ではアスファルト合材の製造・販売および建設廃材の中間処理業を中心に事業を行っています。その取引における受発注は発注側が工事現場という制約もあり、旧態依然とした電話やFAXによるものが主となっており、受発注者双方の利便性向上が図られていませんでした。

今回、製品オーダーシステムのクラウド化、そして顧客のニーズに合わせサービス機能を充実させた、プラットフォーム型オーダーシステム「アスプラネット」をKDDI(株)と共同開発しました。



これにより、PCやモバイル機器等から依頼することが可能となり、発注者、および当社の営業担当者・工場出荷担当者の情報共有がリアルタイムで行えるため、効率的かつ的確な現場管理をサポートします。また、受発注業務の省力化を図り、社員の働き方改革にも寄与します。

道路舗装業界初のシステムである「アスプラネット」を全国展開し、合材工場のDXを加速させていきます。



アスプラネットの詳細はこちらのQRコードからご覧になれます。

SXへの取り組み アスファルトプラントにおける脱炭素化

2021年11月、山形県山形市の地元大手建設会社との共同企業体として、市内唯一となるアスファルト合材工場を新たに開設しました。

当工場は環境面に配慮し、業界の脱炭素化に先駆けて燃料をガス化、グリーン電力を採用、高効率機器の導入により、従来プラントと比較して、2030年目標である二酸化炭素排出量を50%削減、また硫黄酸化物の排出ゼロを目指します。

さらには山形市も参画し運営されているエネルギー処理施設から、副産物である熔融スラグの供給を受け、山形県リサイクル認定製品として登録させていただき、

アスファルト舗装合材の材料として使用していく計画です。これからも地域に根差し環境に配慮した工場運営を図っていきます。



アスファルトプラント(山形工場)



高効率ガスバーナー

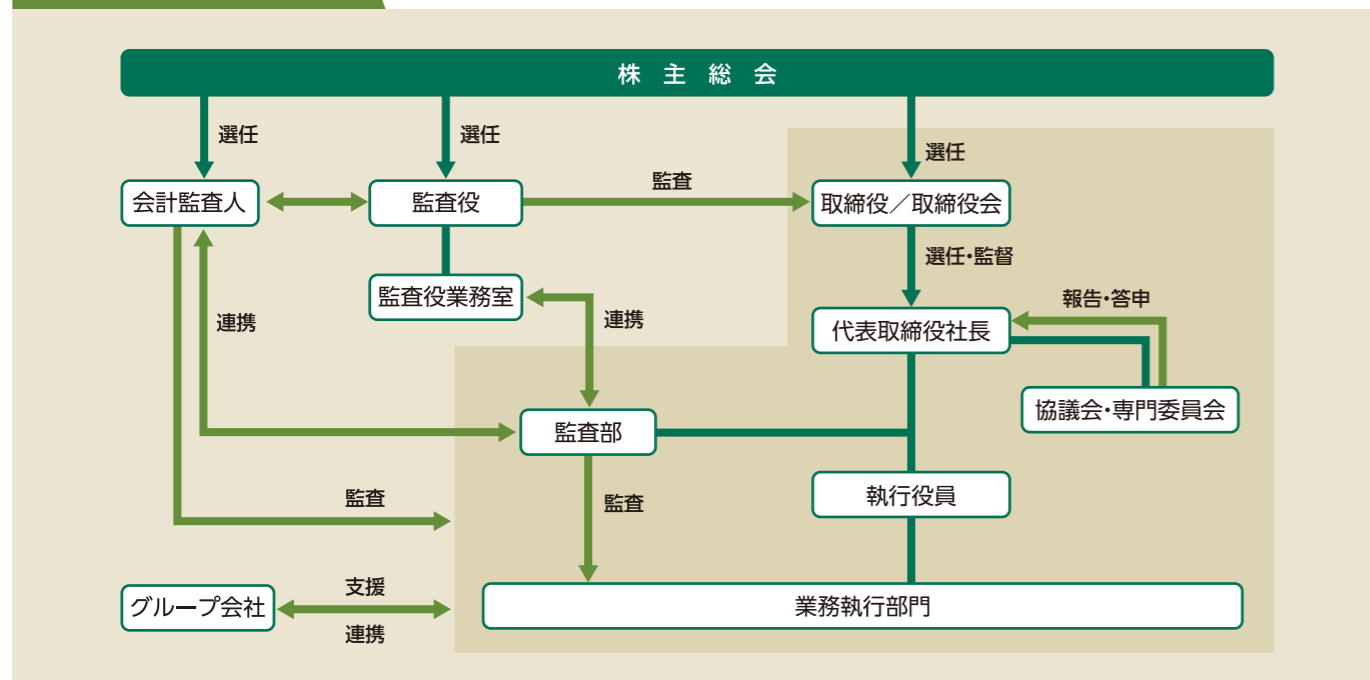
企業統治

大成ロテックでは、経営の効率性・透明性・健全性を高めるためにコーポレートガバナンス体制の充実・強化を図り、企業価値を向上させることを目指しています。

取締役会(社外取締役を含む)は、経営上の重要事項の決定と業

務執行の監督を行います。監査役は、取締役会などの重要な会議への出席を通じて取締役の職務執行の適正性、健全性について監査を実施しています。また、執行役員制度を導入し業務執行の効率化・迅速化を図っています。

コーポレートガバナンス体制図



コンプライアンスの推進

大成ロテックでは、「大成ロテック企業行動規範」を基本にコンプライアンスを推進し、社会から信頼される企業となるため、法令等の遵守や公正な取引の確保等を行っています。

また、今年度は昨年度に引き続き、「法務コンプライアンス部」および「監査部」を中心に、一連の独占禁止法違反事件を受けて策定した再発防止策に関するフォローを重点的に行い、関係各部門と連携することにより、再発防止策のさらなる徹底を図っています。



コンプライアンス研修の様子

具体的な取り組み

従業員一人ひとりに対してコンプライアンスを徹底させるために、毎年、全国の支社・工事事務所・合材工場などにおいてコンプライアンス研修を開催しています。研修テーマとして、ハラスメント、独占禁止法および建設業法遵守の再徹底や事例説明に加え、注意すべき事案の水平展開を行うとともに、本年度は談合・カルテルの防止を徹底するため、実践的な「シミュレーション訓練」を行うなど、全社的なコンプライアンスの強化に努めています。

2018年4月から、全社員に対して「コンプライアンス通信」を発行しております。建設業法・ハラスメント・環境問題・労働関連など毎回テーマを変え、月に1回を目途に配信し、コンプライアンス遵守意識の向上に努めるとともに、日常業務におけるコンプライアンス資料としての活用も図っています。

営業活動におけるコンプライアンス遵守状況の確認のため、社内規程「独占禁止法遵守のための行動指針」「入札業務の適正確認手続きに関する細則」にのっとり、毎年入札業務の監査を行っています。

情報セキュリティ対策

情報化社会は私たちの生活を便利にし、多種多様な利益をもたらしています。しかし利便性を得た反面、サイバー攻撃やインターネットにおけるトラブルなど大きな危険性を抱えています。これらの脅威から会社の情報資産を守るために、情報部門の情報セキュ

リティレベルの向上、社員が遵守すべきことを定めた「情報セキュリティ管理規定」の制定やEラーニングによる研修の実施をはじめとする、さまざまな情報セキュリティ対策を講じています。

※個人によるTwitter、Facebookなどの情報発信メディアによるトラブルを防止する行動指針として「ソーシャルメディア利用ガイドライン」を制定しています。

マネジメントシステム

当社は現在3つのマネジメントシステムを社内で運用しています。実態が外から見えにくい品質管理システム、環境管理システムについては国際規格であるISO9001とISO14001に基づく外部の認証登録を受け、2017年に2015年版の移行審査を受け、移行が完了しています。第三者から定期的にその運用状況について審査を受け、日々業務の継続的改善に努め、当社の持続的な成長に繋がっています。また、社外からその活動が見えやすい労働安全衛生管理システムについては2017年度までは自己宣言方式を採用して運用していましたが、2018年度にCOHSMSIに基づく外部の認証登録を受けました。

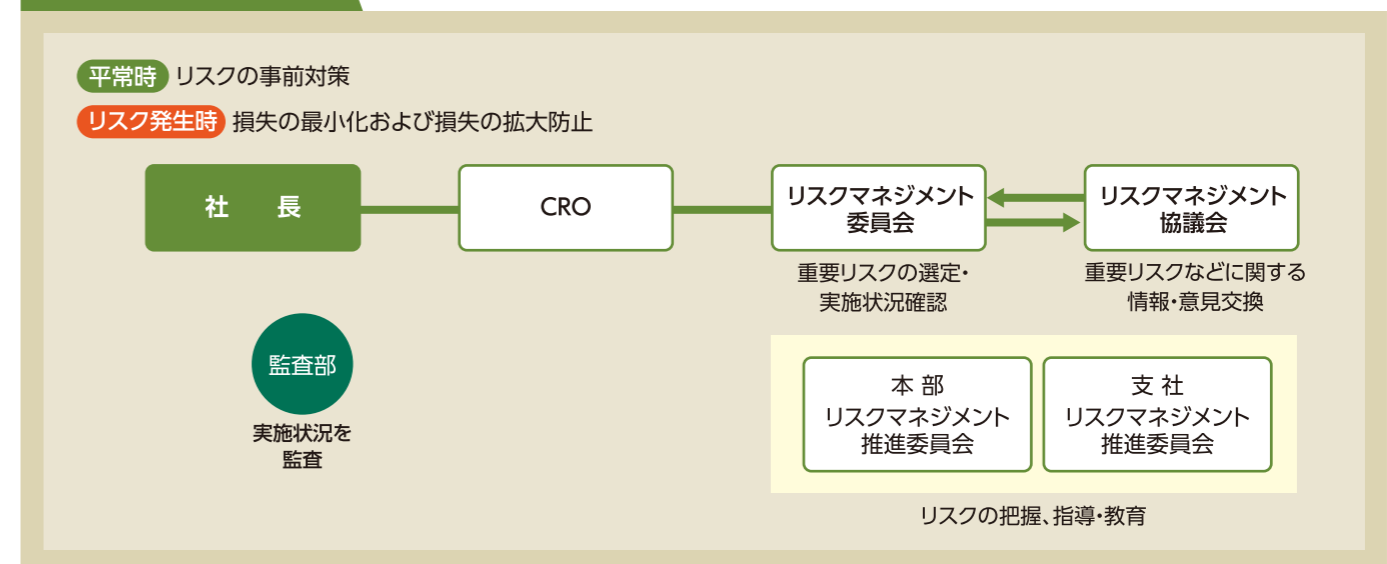


リスクマネジメント

会社の社会的信用を損なわせる可能性のある事象、会社に人的、物的もしくは経済的損失を発生させる可能性のある事象をリスクと定義し、各本部・支社において抽出されたリスクの中から、特に影響度や発生可能性・頻度が高いリスクについては「全社重要リスク」として管理・周知を図り、適宜必要に応じて見直しを実施しています。各部門ではそのリスクについて日常的にモニタリングし、リ

スクコントロールがなされているかをチェックしており、また、監査部はリスクマネジメントの実施状況に関する監査を実施しています。それらを継続的に実施することにより、リスク発生の予防、リスク発生による損失の最小化、再発の防止およびリスク対策の評価と改善を行い、大成建設グループの一員として企業の社会的責任を果たしてまいります。

リスクマネジメント実施体制



人権の尊重

「大成ロテック企業行動規範」で基本的人権の尊重を掲げ、社長を委員長とした人権啓発協議会を設置して、差別のない社会の実現とハラスメントのない良好な職場環境づくりを推進しています。また、人権啓発研修会の実施はもとより、各社内研修のカリキュラムにも人権研修を組み入れ、従業員に対し人権に対する意識の向上を図っています。

人権啓発協議会

目的

- 1 同和問題をはじめ、社会に存在する様々な差別事象を正しく認識する。
- 2 不合理や差別を無くすよう努力する社員の行動を促進する。
- 3 人権尊重の目的を達成する為の啓発活動を行う。

活動方針

- 1 「人権は本来持っている権利であり、全ての人が等しく幸せな生活を営むための基本的な権利」であることを正しく認識し、より良い人格形成を目指す社員の成長を支援する。
- 2 同和問題、障がい者、エイズ、セクハラ等の差別の実態を正確に理解し、集合研修や職場等で人権意識の高い従業員の育成を図る。

働き方改革の推進

週休二日制の実現

2022年度以降は4週8休とする目標を掲げ、その実現を目指しています。

働き方改革の動き

- 2020【4月】** ●新入社員の完全土日休暇の導入
●在宅勤務(テレワーク)の試行実施
- 【9月】** ●直行直帰制度統一運用開始
- 【11月】** ●産業医面談にWeb面談を導入

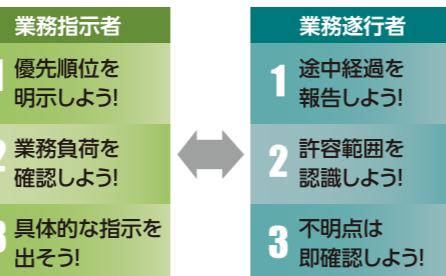
- 2021【1月】** ●介護・看護休業既定の改訂(時間単位の取得)
- 【4月】** ●女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画(第2期)
- 【7月】** ●社内コミュニケーション活性化(3C活動)の周知徹底

- 2022【7月】** ●健康経営宣言
- 【10月】** ●節日代休制度の運用開始
●育児休業規程・保存有給休暇制度の改定

有給休暇平均取得日数(2021年度)

9.0日

3C活動 3つのCommunication



ダイバーシティの推進

多様な人材が活躍できる働きやすい会社を目指して

女性、外国人、障がい者などの「多様性のある人材活用」や、就業時間の選択制などの「多様性のある働き方」の推進を行っています。2021年4月には「女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画」を新たに策定し、男女ともに働きやすい会社を目指しています。

仕事と子育ての両立

社員が能力を十分に発揮できるように次世代育成支援対策推進法に基づく「一般事業主行動計画」の策定や、出産・育児や介護にかかわる休業・休暇制度の整備をしています。育児休業5日間を有給化し、男性社員の育児休業取得率100%を目指して取組みを推進しています。

育児休業取得者数(2021年度)

性別	取得者数	対象者数
男性	14名取得	対象22名
女性	3名取得	対象3名

障がい者雇用率の達成

障がい者雇用を積極的に推進し、法定雇用率の達成を実現しています。

外国籍従業員の採用

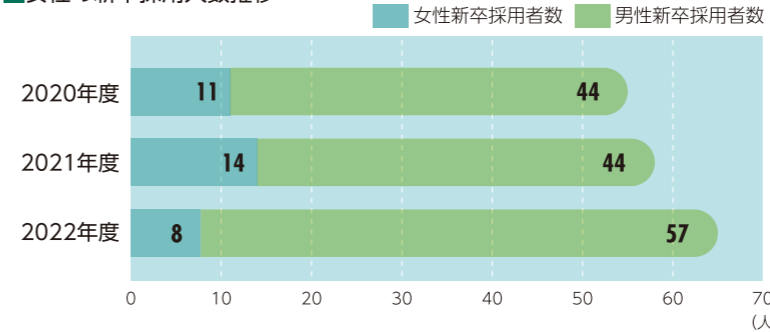
当社では、外国籍の社員も活躍しています。今後も積極的に採用を行い、多様な人材の活躍を推進していきます。

外国籍社員在籍人数推移



女性のさらなる活躍を推進

女性の新卒採用人数推移



女性管理職の就任

女性の部長や室長、工場長が就任し、全国で活躍しています。

女性社員研修会の実施

本社および各支社にて、女性社員を対象とした「ビジネスマナー研修」などの各種研修を実施しています。今後も女性社員の研修や意見交換会を随時開催し、女性の働きやすい職場づくりに努めていきます。

人材啓発活動

新入社員研修に始まり、階層別研修や各種専門研修、資格試験対策研修を体系的に実施し、OJT教育、通信教育制度などと合わせて、従業員の成長をバックアップしています。



スキルアップ研修・部門別専門研修 ※下記の研修は一例です

1年次～	3年次～	30代～	40代～
<ul style="list-style-type: none"> ○新入社員研修 ○新入社員フォローアップ研修 ○基礎技術(2年次)研修 ○機械担当者(初級)研修 ○品質管理担当者(新規)研修 ○CAD研修 ○営業基礎研修 ○合材工場営業担当者研修 ○法務研修 ○2級土木受験対策研修 	<ul style="list-style-type: none"> ○技術(3年次)研修 ○工事担当者(初級)研修 ○工事担当者(6年次)研修・プレゼン研修 ○中級品質管理担当者研修 ○合材工場機械担当者研修 ○エンジニアリングレベルアップ研修 ○情報化施工(ICT)研修 ○原価管理研修 ○1級土木受験対策研修 ○1級舗装受験対策研修 	<ul style="list-style-type: none"> ○新任係長格研修 ○国際研修 ○工事担当者(上級)研修 ○現場代理人研修 ○情報化機械施工研修 ○上級品質管理担当者研修 ○建築社員スキルアップ研修 ○PFI事業関連研修 ○ビジネス法務研修 ○舗装診断士受験対策研修 	<ul style="list-style-type: none"> ○新任課長格・プレゼン研修 ○マネジメント研修 ○部長格研修 ○工事担当者能力向上研修 ○新任工事事務所長研修 ○新任工場長研修 ○新任営業所長研修 ○営業活動の強化研修 ○建設業界用マーケティング実践研修

より充実した研修のために

鴻巣研修センターがリニューアルされ、宿泊室が全室完全個室となり研修生のプライベート空間が確保されました。

ウェルネススペースは用途に合わせて「アクティブゾーン」「リラックスゾーン」「スタディゾーン」の3つに分かれており、舗装会社であることを意識して、モルタル調の床や人工芝など外構を想起させるデザインに統一しています。



社長・本部長表彰

2022年6月15日(水)に「従業員表彰式」が行われました。

営業や設計、工事、技術、研究などの各分野で優れた成績を残し、社業の発展に寄与した個人や団体、グループを対象とした表彰です。2021年度より、表彰時期を固定しない顕彰制度も制定し、顕著な功績に対してスピード感を持った表彰を実現しています。



大成ロテック建築部では、これまで数多くの建築物を施工してきました。
2022年度より建築本部が設立され、大成ロテック(株)の基幹事業として成長するべく、より一層、建築事業に邁進してまいります。
また、昨年度は大成建設(株)のご紹介により鉄筋コンクリート造の事務所を施工することができました。これまでは鉄骨造の建築物が主でしたが、建築部の新たな取り組みの一つとして大きな実績を残すことができました。特に、建築工事における品質管理や技術力の向上に取り組んだ事例を紹介します。

事例 【工事名：埼玉県内事務所ビル】

3Dモデルの作成

設計図を基に3Dモデルを作成し、発注者や設計と確認し、施工者の認識とズレが生じないよう、外観全体のイメージの共有を図りました。
また、各仕上げに関するイメージの共有や建築と設備の取り合いの検討に活用することができました。



モックアップの製作および改善案の検討

本工事の外壁はコンクリート打ち放し仕上げ、および杉板浮造り本実(すぎいたうづくりほんざね)型枠コンクリート打ち放し仕上げであり、躯体の品質が仕上げの品質に直結するものでした。
杉板には3種類あり、それぞれ異なる見え方の仕上がりとなります。そのためモックアップの製作を行い、施工性等の検討や、発注者および設計と仕上げイメージの確認を行いました。
その結果、使用した杉板の中で最も木目と色が濃く表れる焼浮造りを使用することになりました。



お客様の満足のために

内外装ともに意匠性が高い建物の施工でしたが、発注者および設計との細かい打合せを重ねたことで、発注者に満足いただける建物を完成することができました。

現場担当者の声

工程管理には大変苦労しましたが、大成ロテックの完成物件の中でも一番のグレード感と仕上がりの建築物をお引渡しできたと考えています。無事に竣工・引渡しができることに非常に安堵しました。



鴻巣市コミュニティの里づくり事業へ寄付を実施

当社が「技術研究所」と「機械技術センター」を設置している埼玉県鴻巣市に企業版ふるさと納税として寄付を行いました。
今回の寄付は、「コミュニティの里づくり事業」に対するもので、鴻巣市コミュニティ野生復帰センターにおいてコミュニティのつがいを飼育し、将来的な放鳥を目指す、自然環境の保全・再生の取り組みに役立てられます。



社会科見学の実施

「新東名高速道路 伊勢原北IC～秦野IC間舗装工事」工事事務所において地元工業高校土木科の生徒の社会科見学を受け入れ、社会インフラ整備において道路とはどのように造られるかを体験していただきました。



平和大通りの清掃

平和祈念式典に合わせて広島を訪れる方が増えることから、来訪される方のことを想い平和大通りの清掃を毎年行っています。



安全衛生マネジメントシステム

当社は2018年11月28日に建設業労働安全衛生マネジメントシステム(NEW COHSMS)が全社で認定されました。

2021年1月1日に安全衛生管理標準の改訂版を発行し、事業活動に伴う労働災害、公衆災害、交通事故の防止と安全衛生水準の向上に努めています。

2022年
安全目標



● 度数率 0.5以下
度数率 = $\frac{\text{休業1日以上の労働災害による死者数} \times 1,000,000}{\text{延べ労働時間}}$
(休業1日以上) (小数点3位以下は四捨五入)

工事部門における重点管理項目

【重機車両に関連した災害の防止】

- 立入禁止措置と重機の安全補助装置の設置活用
- 誘導者の配置
- オペレーター、作業員への教育指導(作業手順、KY活動、安全巡視)

【架空線・地下埋設物・重要構造物の損傷事故防止】

- 管理者の立合いと事前の確認調査
- 目印表示等の設置による見える化
- 「公共物近接作業実施要領」による指導と事故災害事例の活用による啓発

【路面切削・研り作業での飛散事故防止】

- 飛散防止対策計画の立案と実施

【安全管理向上のための教育の充実】

- 安全衛生環境教育の充実
- 工事検討会での安全品質管理の検討
- 作業員に対する安全教育の充実

【働き方改革と健康障害の防止】

- 時間外労働の削減と休日取得
- 特定業務従事者健康診断の受診、医師の就労制限意見の尊重

【環境に対するトラブルの回避】

- 1 着工前の環境的なトラブルの可能性の把握とその排除
- 2 環境に関する法律遵守に対する本社のフォローの実施

【安全意識の向上】

- 1 工事事務所長および工事担当責任者に対する安全衛生環境教育の充実
- 2 業者選定における安全意識レベル把握と工場のための施策の実施

【働き方改革と健康障害の防止】

- 1 休日取得の推進および時間外労働の削減
- 2 工事事務所における業務量の低減

製品事業部門における重点管理項目

【重機・車両に関連した災害の防止】

- 1 重機作業エリアの区分けにより人と機械の分離を実施し、やむを得ず立ち入る場合は重機を停止させる。
- 2 重機作業区域への立入禁止措置の徹底と、「重機の自動停止装置」の採用によるダブルセーフティーを実施する。
- 3 設備内清掃作業に重機を使用する際はヘッドガード付きの機種を使用し、立入禁止措置を確実に実施する。また狭隘部での作業は人力作業とする。
- 4 ダンプ車両荷台シート脱着および付着防止剤塗布作業における転落事故防止対策について、作業手順書の運転者に対する周知を徹底する。

【工場機械設備災害の撲滅】

- 1 機械設備動力可動部には、安全カバー等設置による挟まれ・巻き込まれ防止措置を徹底する。
- 2 高所における墜落制止用器具の完全着用と使用、および点検指導を徹底する
- 3 繰り返し型災害の再発防止に向け、重点危険箇所の立入禁止措置を徹底する。

建築部門における重点管理項目

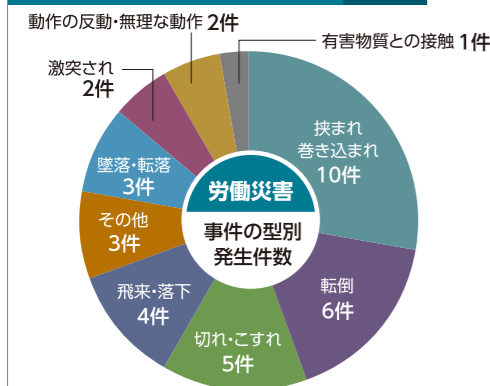
【墜落転落災害の撲滅】

- 1 工事検討会(鉄骨工事・足場組立解体工事)の実施と日常点検の実施
- 2 墜落制止用器具(フルハーネス型、胴ベルト型)着用および使用の周知・指導の徹底

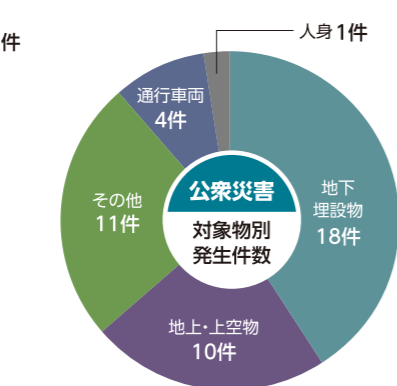
【建設機械等の稼働に関連した災害の防止】

- 1 クレーン等の機械使用時の計画の立案とその確実な実施
- 2 作業員および搬入出車輻輳手に対するルールの周知
- 3 人と重機との接触を物理的および機械的に回避する方策の実施

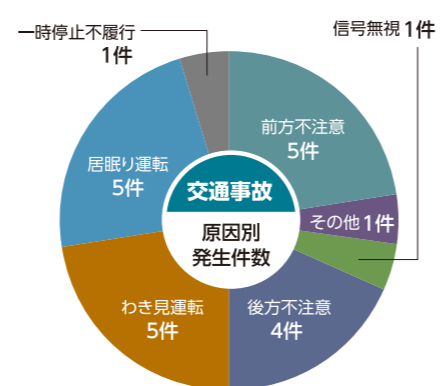
2021年の事故・災害発生状況 総括



工場で発生した労働災害は35件、合材工場が発生した労働災害は1件でした。「挟まれ・巻き込まれ」「転倒」「切れ・こすれ」が多発しました。



物損事故は44件(前年17件、前々年30件)発生しました。地上・上空物の事故が約半数を占めました。人身事故は1件発生しました。



交通事故は22件でした。(前年19件、前々年27件)『前方不注意』『居眠り運転』『わき見運転』による交通事故が多発し、この3つの原因で全発生件数の68.2%でした。

パトロールの実施

当社では以下のようなパトロールを実施して事故災害の撲滅に努めています。

社長パトロール

社長によって行われるパトロールです。



本社安全環境部によるパトロール

安全週間、年末年始、年度末に合わせて行われるパトロールを含め、本社安全環境部が随時行う現場や工場のパトロールです。このパトロールでは安全、環境、品質の一元化の考えに基づき安全だけではなく、当社が認証取得している品質マネジメントシステム、環境マネジメントシステムの内部監査も兼ねた巡視を行っています。

協力会社との係わり

職長への教育について

建設業の担い手不足は業界が抱えている問題です。

当社は安全衛生環境協会の正会員協力会社に所属する職長が、安全管理能力や施工管理能力と積算能力、生産性・利益向上を目的として、全国で職長への教育を実施しています。

マイスター職長制度について

当社の施工現場において労働災害防止と品質のさらなる向上を図ることは、喫緊の課題です。そのためには協力会社の優秀な職長を確保することは必要不可欠です。

「大成ロテックマイスター職長制度」は、優秀な職長を当社の施工現場に確保すると共に技術・技能を継承するために優良技能者報酬制度として2016年に定めたものです。



マイスター職長に認定された方のヘルメットに貼るステッカー

支社、工事事務所によるパトロール

支社長をはじめとする支社幹部や工事事務所長によってパトロール計画に則り定期的に行われる安全パトロールです。

事業主パトロール

協力会社の事業主によって毎月2回以上行われる安全パトロールです。



マイスター職長の認定条件

- 1 安全衛生環境協会正会員の協力会社に所属し、当該会社に5年以上勤務している「現場施工に直接かかわる職長」で災害防止活動、職長会活動、職場(現場)環境改善、品質の向上・確保に積極的に協力し作業指揮等の能力が高く、実績・貢献度などが総合的に優秀な者。
- 2 認定基準
 - 1 協力会社の正会員の社員で当該会社に5年以上勤務している者。
 - 2 工事部主催の「職長への教育」を1回以上受講し成績が優秀な者。
 - 3 職長・安責者教育終了後、5年以上現場に携わった者。
 - 4 能力向上教育修了者。
 - 5 新CFT又は、RST資格保持者であり協力会社に職長教育が実施できる者。
 - 6 特別教育インストラクター資格取得に意欲がある者。
 - 7 認定時に、新CFT又はRST資格を保有していないが、認定後1年以内に新CFT又はRST資格を取得できる者。
- 3 スーパーマイスター

マイスター職長として3年間以上施工現場に従事し、直近3年間の平均就労日数が年間100日以上で本人及び指揮下の作業員が無事故・無災害であり実績・貢献度などが特に優秀な者。

※以下のいずれかに該当する場合は、認定から除外する。

- (1) 68歳に到達した者。
- (2) 過去1年間に当社施工現場にて重大な公衆災害並びに休業4日以上の労働災害を発生させた協力会社に所属する者。(重大な公衆災害については、事故発生後当社が判断する。)

大成ロテックでは、全国各地でさまざまな事業活動を展開しています。2021年度に携わった代表的なプロジェクトをご紹介します。

阪和自動車道みなべ舗装



発注者 西日本高速道路株式会社 関西支社

竣工日 2021年12月20日

工事概要	アスファルト舗装工	22,000m ²
	切削オーバーレイ工	12,500m ²
	排水構造物工	2,500m
	防護柵工	4,000m
	床版防水工	11,000m ²

阪和自動車道の付加車線事業における「みなべIC」を中心とした総延長6,130mの4車線化舗装工事です。みなべICを境に4車線化時の上り線から下り線に変化する道路線形のため、仮ランプの築造、三度の夜間通行止め、IC封鎖による集中工事などの制約中施工を進め、2021年3月27日に4車線供用を開始しました。



監理技術者
中村 哲人

特殊な道路線形であった「みなべIC」との接続箇所や、本線との取合い箇所は、一見して完成形が思い描けない感じでした。社員全員で綿密に打ち合わせを行い、日々でき上がっていく現場と共に、若い社員が多かった事務所自体の成長を感じました。完成検査では思わず感極まり、涙を流す程の思い出深い現場となりました。本線開通後の路下整備工事も含め、無事故無災害を達成し、誠心誠意全力で工事に取り組み、発注者から工程管理に関しては特に高評価を受け、表彰状と感謝状をいただきました。

R2国道50号桜川筑西IC関連(延伸)長方地区舗装他工事



発注者 国土交通省関東地方整備局

竣工日 2022年2月28日

工事概要	土工事	7,500m ³
	地盤改良工	3,700m ³
	アスファルト舗装工	9,830m ²
	排水側溝工	986m
	縁石工	668m
	区画線工	6,191m
	仮設工 現道部切替工事	600m

国道50号と北関東自動車道 桜川筑西ICとの連携の強化、および国道50号の幹線道路として広域的に円滑な交通の確保を目的とした4車線化に向けての工事です。事業延長1.2kmのうち、当該工事は延長600mを担当しました。ICTを活用しアスファルト舗装を施工し、新設道路への供用開始までを行いました。



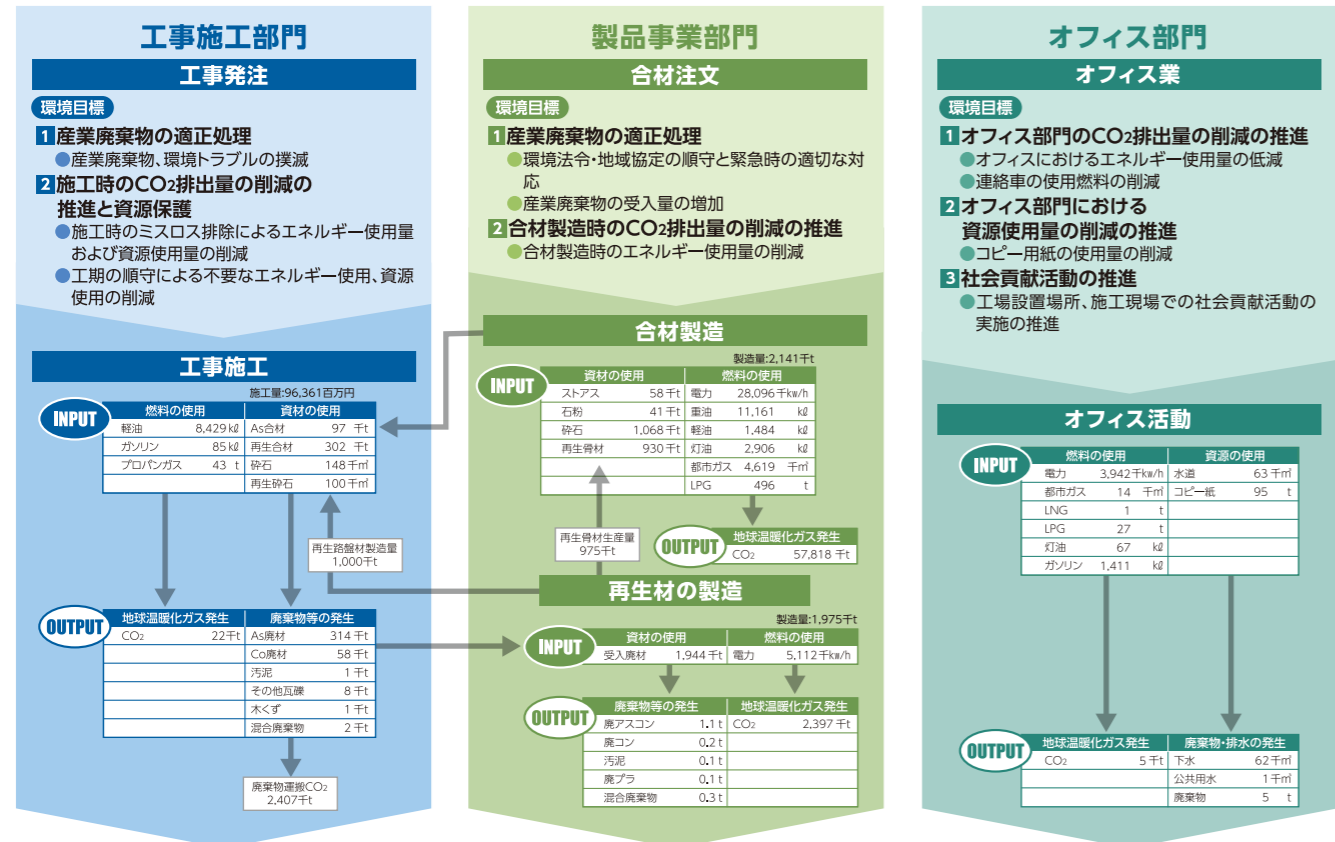
現場代理人
藤田 恭平

国道50号は、朝夕の交通量が非常に多いため、渋滞が発生しやすく、また、昼夜間は信号が少ないため、交通車両の速度超過が目立つ道路です。そのような施工条件の中、今回工事で懸念されていたことが交通事故対策でした。当工事で交通事故発生の可能性が高いと考えられたのは、現道から新設道路側へ車線切替工事でしたが、切替工事の道路設計、保安計画、工程管理、人員配置等への入念な打合せを行った結果、無事無事故で車線切替ができました。また、17か月に渡る工事期間でしたが、工事途中の事故災害が1件もなく完工することができたこともあり、工事全体として高い評価をいただきました。

環境負荷物質の排出と削減状況

舗装工事現場から排出されるアスファルトやコンクリートの廃材などを再生する中間処理プラントの活用により、産業廃棄物最終処分量を削減しています。さらに、日々の業務においても、CO₂排出量削減に向けた取り組みを行っています。

城南島リサイクルセンター
主にコンクリート廃材の中間処理を行っています。

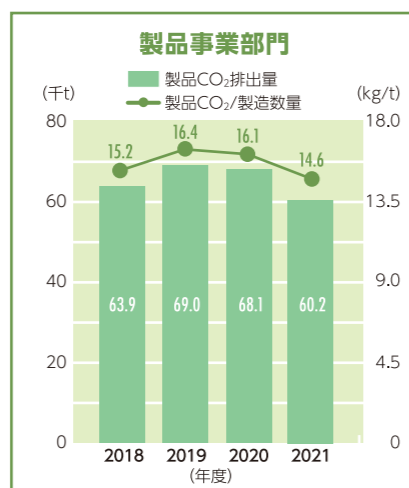


適正処理

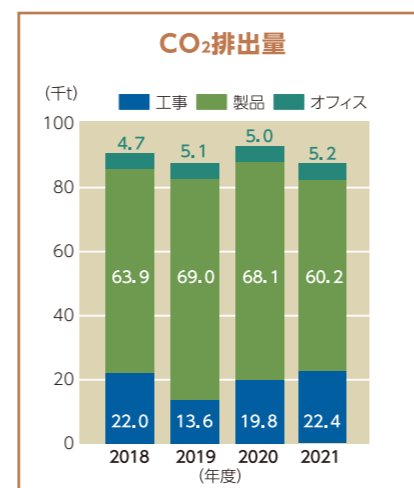
CO₂排出量削減への取り組み



工事施工高が増加したことにより機械の稼働台数が増え、CO₂総排出量及び百万円当たりのCO₂排出量も増加しました。



生産量是对前値比若干減少し、それに伴いCO₂総排出量も若干減少しました。また、製品製造1tあたりのCO₂排出量は減少しました。



政府はCO₂排出量を2030年度に2013年度比46%減の目標を掲げています。当社もCO₂排出量の削減のために積極的に対策を講じていきます。